

《連絡先》

山田清彦 後援会
三沢市松園町 2-8-12
TEL 53 - 6 2 1 2
FAX 53 - 6 0 6 1

社会新報

Social Democratic Party

12◆19(水曜日)

2007■第4471号(改題4068号)

社会民主党全国連合機関紙宣伝局
週刊(水曜日発行)

〒100-8909 東京都千代田区永田町 1-8-1
電話代表 03(3592)7515・振替 00140・1・3203
●定価 180円●1ヶ月 700円●送料 160円

発行所

「山田清彦 困りごと相談室」開設します。

皆さんお元気ですか。

十二月の声を聞いてから、雪かきに精を出す機会が増えましたが、冬はこれから本番です。あまり無里をなさらずにお過ごしください。

なお、私の近所の方から、三沢市の除雪に不満が寄せられました。せっかく庭先を片づけても、除雪車が通ると、前よりも多くの雪を置いていくということでした。

このことについては、以前より一般質問で取り上げておりました。他の町村は除雪が上手だが、どうして三沢は下手なのか、通学路をきれいにしないと、子供たちが車道を歩いて危険なの



で、対策をとってはどうか。そのような質問によって、若干良くなったことがあります。が、やっぱり除雪車が走った後は、ドッサリ雪を置いていくのは変わりありません。

特に、今回の苦情は、一人住まいのお宅の除雪のことでしたので、町内のボランティアでの対応も考えられました。しかし、私の家もそうですが、年輩いた両親には雪かきは無理です。結局は年若い私がやるしかありません。そして、近所では、高齢者の方が一人で住むケースを多く見かけます。それを踏まえれば、自分の家の前を片づけるのに精一杯。とてもボランティア

アに手を貸せる状況ではありません。そこで、三沢市の「困りごと相談窓口」に持ち込みましたら、除雪を担当する建設部との検討を行ってみるという返事をいただきました。善処するとの返事が出ることを期待しています。

なお、三沢市では、「困りごと相談窓口」を設置しています。市役所の玄関の横に相談用紙が備えてあります。でも、その相談件数は多くはないようです。そういう相談を持ち込むことに、多くの市民の皆さんが抵抗をお感じになられているのかもしれない。

そこで、皆さんの市政に対する苦情や困りごとをお聞きする相談室を作りたいと思います。皆さんが日ごろ三沢市政に感じている不満で、公共性の高いものは一般質問で取り上げますし、個別に解決を図るべきものは、担当課に直接お願いします。

三沢市の対応は遅れがちだからと諦めないで、少しでも暮らしやすい三沢市にすることを、皆さんが求めているいただくことは大事です。ただし、直接市役所に相談するには敷居が高いとお感じの方は、是非「山田清彦 困りごと相談室」に、概要を山田清彦宛にFAXかお手紙で送ってください。山田清彦が相談内容を確認する電話を入れますので、その後は面談の上で、対応

を協議します(プライバシーは厳守します)。

九月議会での 一般質問(9/14)

一、①JTAGS受け入れ表明における法的権限があるのか。

回答：自治体に法的権限はないと承知している。市議会をはじめ、二六団体の方々から意見を伺った。最終的に、やむを得ないと判断したところがあります。

再質問：団体の皆さんの意見を聞いたのか、どうか。

再回答：市長、市議会ははじめ、各種団体の意見を拝聴して、総合的に判断した。安全保障条約の六条において、国の専管事項であると思っております。

政策推進部長 住民意見の聴取の件であります。各種付属機関につきましては、団体というふうなことではなくて、委員のほうから聞いたということでございます。②基地内の通信監視機関エシジョンの実態把握はできているのか。

回答：エシジョンについては、実態は把握できていない。配備されているかどうかについても承知しております。

再質問：実態把握に努めるべきではないか。

再回答：国も把握をしていないことを、市が把握するのは非常に厳しいと思う。

二、①中越沖地震で国の安全審査の不十分さが明らかとなったが、六ヶ所核燃施設への不信感はないのか

回答：国が責任を持って対応すべきものと考えております。

再質問：市としてどう対応するかです。

再回答：：国の所管でありますので、情報の収集に努めたい。

二、②作業中の被ばく者が続いているが、三沢市に被ばく者がいない対策を求めるべきではないか

回答：地域住民の安全確保及び環境の保全について、その徹底を強く求めてまいりたい。

再質問：市としての抗議をいつやったのか分からない。その都度の対応をしていますか。

再回答：十八年五月、六月、十九年四月は口頭での要請等をしていますが、八月はしていない。

三、①昨年十一月実施の市民アンケートに寄せられた市民の声への対応について

回答：次期総合計画であります三沢市総合振興計画へ反映をさせてまいりたい。

再質問：前の議会で、一月に終わったという答弁でした。

ところが、八月になって回答が来たところもあるのです。それをこれから検討するといふのであれば、前回の回答は間違いといわねばなりません。いつまでにやるのか問います。

再回答：：今年度中に完了したい。

三、②夜間の非行防止は取れないのか

回答：深夜パトロールの実施は極めて困難であることから、三沢警察署にお願いしている。

再質問：これからアメリカ村とかを作るのに、夜間のパトロールができない、しないで、何か問題が起きても対応できないことが起きてしまう。それを防ぐために、必要だと思いがいかか。

再回答：深夜のパトロールに着いては、場合によっては危険を伴うので、警察に任せてほしいということでした。

四、①シルバー人材センターへの補助事業のあり方について。

回答：仕事の紹介が偏る場合もあるとのことでありますが、人材センターでは、紹介されない人がないように務めていくとのことでした。

再質問：実態把握をして、仕

事が回るように指導すべきだったが、今まではそれがなかったのではないでしようか。今までそう言うチェックができていたかも知れず、お尋ねします。

再回答：：こういうことがないように、センターと相談しながら、ゼロにするように努力していきたい。

四、②新「道の駅」の活性化対策について

回答：道の駅でのイベントの計画立案と、情報発信に務めます。

再質問：道の駅の活性化対策として、ポイント制を導入するというのは早く実現すべきでしょう。道路の利用率というのは測定してどうしょうが、三三八号線と道の駅の前の道路との利用率の差はどのくらいの開きがあるのか。

再回答：：今後はポイント制を導入します。朝の交通利用料ですが、国道三三八が九九〇台、道の駅側が五二五台というデータがあります。最新のものはありません。

十二月議会での 一般質問(12/11)

一、米軍基地問題について

① JTAGSの受け入れに際して、二六団体から意見を拝聴した手続きは妥当と言えるのか問う。

回答：六団体からは代表者に、二〇団体から委員の方から聴いたので、妥当に行われた。

② ミサイル防衛の強化に役立つと言われているが、基地の機能強化でないのか。

回答：従来から通信施設があるので、基地機能の強化とは考えていない。

再質問：弾道ミサイル防衛の観点では、機能強化のための配備ではないのか。

再回答：強化とは考えない。二、核燃サイクルについて、六ヶ所再処理工場の原子力防災訓練への当市の参加は、どのようにされたのか。

回答：三沢市としては、核燃サイクル調整会議を立ち上げて、独自に訓練を行った。

② 再処理工場では高レベルガラス固化体を製造したが、事前に隣接安全協定に高レベルガラス固化体の貯蔵期限を定めていなかったのは何故か。

回答：県の安全協定に取り決りがなかったもので、検討がなかった。今後の動向を注視したい。

③ ウラン濃縮工場の隣接協定には、ウラン廃棄物に関する取り決めが盛り込まれていないが、その整備についてどのように準備されるのか。

回答：ウラン濃縮機器の解体

廃棄物も一次貯蔵していくが、今後法整備がされれば、最終処分になると考えていない。

④ トリチウムが尾駁沼から検出されたという報告があったが、今後は小川原湖でも検出される可能性があるが、風評被害発生の懸念にどのように対処するのか。

回答：風評被害が発生すれば、市役所でも対応していく。

三、青い森鉄道の将来像について

① 十一月七日に開催された青い森鉄道線青森開業準備協議会で、当市の出資負担額が示された。しかし、市民には路線の確保がどのように図るのが示されていない、JRから青い森鉄道に変わると、市民の足がどのようになるのか、全体像を示せないのか。

回答：現在の上下線一本が五〇数本となる。特急はなくなり、快速と普通電車になる。快速の場合、特急の時間に比べて、八戸までは五分増し、青森までは一〇分増しとなる。三沢駅での切符の取り扱いが変わらない。今月開催予定の協議会で、具体的な形が明らかに

なる。

四、民生問題について、

① 三沢市立病院の救命率について、データはあるのか

回答：三沢市立病院では、そのようなデータを取ってきいていない。

平成十八年四月からガンの拠点病院となったので、今後はそういうデータを取っていく。

② 深夜の青少年の非行防止対策について

回答：深夜のパトロールは危険なので、行わない。

再質問：アメリカ村が出来た場合の対応が必要ではないか。

再回答：今後考えていきたい。

③ シルバー人材センターの就業の機会均等対策は行われたのか

回答：仕事の紹介者が偏らないように、内部での改善を図った。

再質問：九月議会の質問がなくても、これまでも市のチェックが行き届いていたのか。

再回答：それはしてきている。④ 市役所職員の飲酒運転発覚の不祥事への対策に取り組まれているのか。

回答：交通安全宣言を行った。綱紀粛正を図っていく。

JTAGSが 配備完了？

一〇月一二日に、三沢市に対して、防衛省から、「JTAGSが配備完了しました」との報告がありました。三沢市民の皆

さんには、「JTAGSって何？」と知っている方もいらっしゃるでしょう。それと、「誰が受け入れを決めたのか？」と思う方もいらっしゃるでしょう。そこで、時系列風にまとめてみました。

3月1日 鈴木市長へJTAGSの配備があるとの説明あり

7月13日 市議会での質問（山田）

7月13日 種市市長へJTAGSの配備があるとの説明あり

8月17日 三沢市長が受け入れ表明

9月14日 市議会での質問（山田）

10月12日 配備完了
11月6日 関係者とマスコミに公開

JTAGSの機能は

JTAGSは、車力に配備されたX-bandレーダーと一緒に機能することで、ミサイル防衛システムが強化されます。

三沢市が基地対策特別委員会に配布した資料によれば、核弾頭ミサイルの迎撃に役立つというものでした。

仮に、北朝鮮から核弾頭ミサイルが青森県に発射された場合、一〇分で飛来します。最新のレーダーでも発射の確認に三分かかるそうです。残り七分で、青森

県民は一带何処まで逃げられるのでしょうか。

この核弾頭を打ち落とすために、日本海にはイージス艦を配備し、車力にパック3という迎撃ミサイルを配備するそうですが、それで全てが打ち落とせなかった場合には・・・？

このように、大変怖い話ですが、これが現実には起きることは誰も考えたくないでしょう。しかし、JTAGSの配備の背景には、そういう狙いがあるので

敵から見た場合に、実に迷惑

なのがX-bandレーダーとJTAGSです。核弾頭ミサイルを撃ち込むことを監視する目となり、鼻となるのがレーダーですから、それを破壊することでも考えられます。戦略的に言えば、核弾頭ミサイルを撃つ前に、X-bandレーダーとJTAGSの機能を破壊する必要があります



車力に配備されたX-bandレーダー

ります。その機能喪失の間に撃てば、目標への到着が容易となるからです。

さて、このJTAGSの受け入れに際して、種市市長は故・鈴木市長とは違って、故・鈴木市長時代に諮問してきた六団体に加えて、新たに二〇団体を加えて意見を聴取したと言っていました。これは、基地対策特別委員会が出た話です。しかし、基地対策特別委員会の委員の皆さんは、その場に資料が配布されていないにもかかわらず、

「どういう団体から聴いたのか？」ということを確認することもせずに、これまでの六団体に二〇団体が加わったことと、「概ねが反対していない」ことを理由として挙手にて賛成（四名が賛成、二名が反対）しました。社会民主党の山田清彦は、基地対策特別委員会の属していないので、委員会を傍聴しましたが、

直接は説明を受けていません。それに、このことについては、全議員に対する説明も有りませんでしたし、議会の議決を経ていません。

また、二六団体から意見を聴取したということだったので、その後に開示請求しましたら、前からの六団体からの意見は会長から聴き、二〇団体からは一人の委員の方から聴いたということが分かりました。しかも、新たな団体の多くは、審議会で

す。市長から委嘱された審議委員ですから、余り厳しいことが言えなかったのではないでしょう。か。いずれにしろ、JTAGS受け入れに係る説明は、約四万三千人の三沢市民の中の二六人に話して、概ね了解を受けて、今回の配備につながったということになります。

何しろ、米軍の軍事行動に関しては、三沢市長は口出し無用というのが国の方針です。これは、故・鈴木市長の時代でもそうでした。更に、種市市長が「三沢市長は、受け入れの是非を論じる法的権限があるか」との質問に対して、「ありません」と応えていることから明らかです。

それにしても、選挙に立候補していたときには、「三沢市民の声を聴く」といっていた種市市長ですが、どうして多くの市民から声を聴こうとしないのでしょうか。せめて、六団体の会議、二〇団体の会議を招集して、それぞれに説明して、賛否について声を拾い、それを国や米軍にぶつけるくらいの戦術はとっても良かったと思います。

以上のような経緯で、米軍三沢基地の中に、JTAGSが配備されるのですが、「米軍三沢基地機能の強化」になったことは間違いありません。これを、「一八人くらいの部隊だから、基地機能の強化ではない」とい

う議員もいました。しかし、人数はどうであれ、ミサイル防衛の機能強化のために配備されるという前提があります。それを、機能強化でないというのは、いかなるものでしょうか。

実際のところ、現在の米軍三沢基地の役割の現状が正確に把握されていないのも事実です。その上に、核弾頭ミサイル防衛の最先端技術が投入されています。種市市長には、もっと緊張感を持って米軍三沢基地のことを考えていただきたい。そして、何よりも、四万三千人の市民への説明責任を果たしていただくことをお願いしていきます。

高レベル固化体 できた？

六ヶ所再処理工場では、遂にと言うか、とうとうと言うか、核のごみの最終形態であるガラス固化体が十一月五日に造られました。

これまで、フランスからの核のごみを一時貯蔵していましたが、これは製造月日が古いもので、一定程度冷えていたものでした。

ところが、今回は六ヶ所で造られたので、約一千百度の溶液を流し込みました。これが、最長五〇年は六ヶ所村に置かれることになるらしいのですが、これから設置期間を安全協定に盛り込むという、お粗末も明らか

になりました。

固化体の前に立つと、二秒間で死ぬくらいの強い放射能を発するのだそうですが、そんなところに立つ人はいませんね。でも、そんな危険なものを造らねばならないのが再処理工場です。さて問題は、このガラス固化体製造工場がいつまで順調に持つのかです。それと、固化体製造工場が閉鎖になったときに、この高レベルの廃棄物を作り出す装置も高レベルの核のごみになるということなのです。

再処理工場は、最長でも四〇年間操業する予定です。ところが、四〇年目にガラス固化体をつくると、それから五〇年は六ヶ所村に留まることになります。つまり、今年から九〇年間は高レベルガラス固化体との共存を余儀なくした、記念碑的な一本だったのです。

ただし、ガラス固化体の放射能は、それから放射し続けるのです。どのくらい長い間放出するかというと、約二四万年間くらいは安定した地盤に眠って貰わねばなりません。その間に地盤がひび割れたり、隆起したりは厳禁です。

果たしてそのような安定した地盤が日本のどこかに見つかるか疑問です。その場所を決定することなく、ガラス固化体を造り出したことに、原子力産業の無責任さを見る思いがしています。

シルバー人材 センターについて

シルバー人材センターは、高齢者の労働力を生かす施設であると思ってきました。でも、その運用には、公平感が感じられないという相談が寄せられました。特定の人だけが毎日のように仕事に行くが、他の人には仕事の声がかからないというのです。

社団法人三沢市シルバー人材センターという名前ですが、三沢市の施設ではないのです。でも、三沢市から高額な補助金が

出ている、同等額が国からも出ているのです。

センターに登録している人の数は約四五〇人ですが、そのうちの五〇人くらいは仕事をしていない人です。

問題は、仕事をしたい人に、仕事の依頼の連絡が少ないという事です。センターに来る仕事かどのくらいあるのか、それをどのように配分するのが、不透明なのは困ります。

この運用については、センターの所管ですが、誠実な運用をしてもらおうと求めていることを担当部長に九月に求めました。

その結果、今後は仕事の声かけをしたデータベースを保管し、声の掛からない方の出ないように改めるという答えを十二月にいただきました。

読者の皆さんの中で、シルバー人材センターに登録したけれども、あまり仕事がないという方は、是非「山田清彦 困りごと相談室」へ連絡をお願いします。匿名でも結構ですが、そのような悩みをお寄せいただければ、多くの方に仕事回るように、再度担当部長に働きかけていきます。

第12回社会民主党レセプションが 開催されました

11月24日(土)、十和田市で、レセプションを開催いたしました。

前段に開催した社民党時局後援会には、講師として社民党副幹事長で、衆議院議員の日森文尋氏をお招きし、「参議院選後の国会情勢」を予定時間を超過して熱く語っていただきました。

その後のレセプションでは、日森氏も交えての和やかな懇談となり、参加した皆様からは社会民主党の活動への激励をいただきました。

以前に比べては、大部組織が小さくなってはいませんが、今の社会情勢の中で、自民党と民主党だけの二大政党が幅を利かすのは困りものです。どちらも平和憲法の改憲には

積極的に傾いています。それを防ぎ、現在の平和憲法を護ることが社会民主党の役割でもあります。

これからも護憲の党として闘いますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



◀レセプション会場にて日森氏と